

# KDKニュース



KDK三つの原則

1. 開拓伝道であること
2. 教会を建てあげること
3. 聖書信仰に立つ、教団、教派との協力

## 国内開拓伝道会

発行人 中島秀一  
〒352-0011  
埼玉県新座市野火止4の8の28  
電話 048-202-1500  
FAX 048-202-1501  
振替 00140-6-57493  
No.127 2020年12月

### 「生きることはキリスト」



KDK委員 板倉 邦雄  
「わたしにとって生きることはキリスト。死ぬことは益です。」(ピリピ人への手紙一章二十一節)

今私はコロナ禍での宣教を考えさせられています。礼拝をどう守るか、週日の集会をどうするか、人との接触(三密)をどうしてゆくか。また、このような苦慮の中で、キリストの教会とは何か、キリストを信じて生きるとは何かを考えさせられています。そのような中で対応していることや、思い至ったことを分かち合いたいと思います。

#### 「二人または三人が」

キリストの教会とは何かと考えている時、マタイの福音書十八章三〇節の主イエスの言葉を思い出しました。「ふたり、または、三人がわたしの名によって集まっている所には、わたしもその中にいるのである。」このみ言葉によれば、キリストの教会の本質は、二〜三人がキリストの名によって集まっている所です。

そこで、緊急事態宣言下、礼拝の中止が始まった時から、私一人での礼拝をささげるのではなく、会堂で役員と共に礼拝を守ることとしました。そして参加できない皆さんのために、インターネットで礼拝を配信することとしました。さらにインターネット

トのできない人には、説教のアウトラインを送ることにしたのです。加えて現在継続中のインターネット配信では、未信者の人が自宅で礼拝を観て下さっています。

#### 「生きることはキリスト」

もう一つ、コロナ禍の中で考えさせられたことは冒頭のみことば、伝道者パウロのピリピ人への手紙の一節でした。ピリピ書はパウロの獄中書簡の一つです。一章二十一節のみことばは、伝道者パウロにとって、「自分の命よりも大切なものがある」という確信でした。その大切なものとは「イエス・キリスト」でした。なぜなら彼にとって、イエス・キリストを語り、証しすることは、「生きるにも、死ぬにも、私の身によって、キリストがあがめられることであった」(ピリピ一章二〇節)からです。このみ言葉の通り、コロナ禍の中でこの私の命よりも大きなものが、この世にはあるのだということを実感しています。

#### 「私たちの教会の対策」

最後に私たちの教会の礼拝対策をお分かちします。①礼拝前に検温する。②消毒液を使い、マスクを着ける。③密接、密集を避ける。④発熱・体調不良の人は出席を控える。⑤礼拝後、会話は最小限度にして、直ちに帰る。⑥換気と加湿に注意する。

皆様の身体と魂と霊が、完全に守られますように祈ります。(第一テサロニケ五章一二三節)

(日本長老教会 千葉みどり台教会 牧師)